

研修報告書 No 3

聖マリアンナ医科大学病院 研修医
研修施設：佐川町立国保高北病院
馬路村立国保馬路診療所

高知県にて地域医療実習を終えて。

高知県の高北病院で経験した研修は普段あまりみることのない介護保険制度について触れあうよい機会となりました。

普段に私の勤めている聖マリアンナ医科大学病院は大学病院であることもあり、一般的には急性期疾患を診ることが多いです。ところが、地域に根差した高知県の佐川町立高北病院では急性期はもちろんのこと、その後の患者が自宅に退院するまでのすべての流れをみることとなりました。大学病院ではDPCや包括医療の関係もあり、退院といっても自宅ではなく慢性期の病院への転院の形式をとることが多かったですが、高北病院では確かに老健や特老といった施設への退院形式も多いですが、それにしても普段に触れている医療以上にその患者に実生活に密着したフォローを医師として関わる機会が多かったように思います。その機会を通じて痛感したことは田舎の高齢化の深刻さです。80、90を過ぎて独居で住まわれている老人は本当に多く、病院からの訪問看護や往診が唯一の手段であったりしました。近年、高齢化が問題視されてはいますがその現実を目の当たりにした感じがしました。今後は都会でも同様の状況となると考え、今後の自分の医療のありかたを考えていかなければと思いました。

あと、もう一点感じたことは、どこで医療をしていても生涯学習は必須であり、患者に提供しなければいけない医療の質は変わらないということです。正直、高知に行くまでは大学病院が最新の医療を提供しており、地域ではより感度や特異度の高い検査があっても測定することが出来ないといった状態にあるものだと思っていました。

しかし、実際に私を指導してくださった浦口先生はその熟練された知識やスキルに満足することなく、今なお最新の知識を勉強されており、臨床に生かそうと努力されていました。確かに地域の医療ではそういった特殊な検査などを迅速には行えないハンディキャップは存在しますが、それが本当に患者にとって必要であれば可能な限り提供していこうとする姿勢に驚きと感銘を受けました。私は現在のところ将来は地域医療ではなく大学病院に勤務する予定なのですが、今回の地域医療の経験を生かし、尊敬する指導医の浦口先生のようにこれから努力してゆきたいと思います。

最後になりましたが今回の研修を支えて下さった浦口先生を初めとする高北病院や馬路診療所の方々、高知医療再生機構の方々に深くお礼申し上げます。